




論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第725号	氏名	夙 幸世
学位審査委員	主 査	平山 謙二	
	副 査	中込 治	
	副 査	森田 公一	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、ケニア共和国ビタ県のビクトリア湖畔におけるマンソン住血吸虫感染に対する危険因子を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 周辺地域や以前の疫学情報から現在の浸淫度を推測し、長崎大学ケニア拠点の保有する人口動態サーベイランスシステム (DSS) をもとに計画を立案した。8つの環境の異なる小学校に在籍する小学4年生310名の横断的な虫卵検査により各個人の感染強度を調査するとともに、質問紙法による個人の社会経済的な因子に関するデータを収集し、これらの因子および地理情報、DSS 情報と感染強度との関連について解析しており、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、感染強度は居住する人口密度と正の相関を示すことを明らかにした。さらに、その他の社会経済的な因子や地理的な条件と関連がないことを示し、この地域における感染動態を理解するための重要な事実を明らかにした。本研究を基盤としたアフリカ地域の住血吸虫症制圧に向けた新たな方法論の提案など今後の進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は熱帯感染症学の発展に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと